

【震災復旧・復興に関する地区説明会（西荒屋地区）】

日時：令和6年11月30日（土）10時～ 会場：西荒屋公民館

主な質疑（概要）

○：参加者からの意見・質問

●：町の回答

※補足事項

○道路の被害について、水平と高さのずれのうち、高さの対応は何か考えているのか。西荒屋小学校の前の道路の片側に高低差による大きな水たまりがあり、人が通れない。高さに対する対応策は何かないのか。

●P14に示しているとおり、町道は令和7年度に実施設計を行い、道路高さを検討する。

○町道ではなく、宅地の高さをどうするのかを聞いている。

●P12に示す被災宅地等復旧支援事業を活用して宅地の復旧をお願いしたい。

○町道の整備は何年度になるのか。

●P14のとおり町道は令和7年度に実施設計、令和8年度に工事着手を予定しているが、液状化対策の事業進捗によっては遅れる可能性がある。

○西荒屋では日常的な問題として、上下水道は復旧したものの、排水については側溝が詰まっており、車庫などに雨水が入ってきている。応急的な措置として対応していただけないか。

●現時点では仮設工事で進めている。排水の状況についても承知しており、一斉に対応することはできないが、一つずつ対応していきたい。

○実際に生活に困っており、宅地に水が入ってこないように何とか対応をお願いしたい。

●都市建設課に具体的な場所をお知らせいただきたい。

○災害公営住宅について、12月のアンケートで意向を確認する。また家賃について条件が異なるとの説明だが、想定される金額をアンケートに添付してもらいたい。

●想定のお示しできるかを検討する。

※12月に実施するアンケートの参考資料に、おおよその家賃としてお示しいたします。

○県道の応急工事がなされているが、住宅地から出てくる町道との高低差がありすぎ、冬期の凍結時には道路を登り切れないという事象が発生する恐れがある。実施設計においてはその点について配慮いただけないか。

●今冬は難しいが、道路については元に戻すこととしており、復旧工事の時は高さを合わせる。応急対応は適宜、実施する。除雪については、現状は消雪も使えない状況であり、機械除雪で対応したい。

○県道を元の通りに修復する場合、自分の家は県道に重なっているため自宅を下げなくてはならず、隣地との影響がある。全てをずらすことを想定しているのか。

- 県道については境界立ち会いを含めて測量を実施している状況であり、県と個別に境界を決めていくことになる。県からは元通りに戻すとの方針を聞いているが、状況を見ていく必要があると考えている。

○ 質問が3つあり、①液状化対策工法はどの程度の負担となるのか、校舎が直ってもグラウンドが使えない場合はどうするのか。②地区の会合があるときに公民館を使わざるを得ないと思うが、現状は駐車場などがガタガタで歩きにくく危険な状態であり、対応する予定はないのか。③仮の上下水道を使用しているが、冬期の凍結が不安であり、対策があるのか確認したい。

- 実証実験については、R7年度の1年間程度はかかる想定しており、その間は学校の復旧工事もあり、工程を調整しながら行なうこととなるが1年を予定している。状況によっては1年で終わらない可能性もある。

- 令和7年度いっぱいを予定している実証実験が終わればグラウンドの工事に着手する予定である。小学校については、1年程度で実証実験が完了すればグラウンドも同時期から使えるようになると思うが、グラウンドの工事中に学校を再開することはできないと思う。また実証実験が延期となる可能性や小学校の工事ボリュームもまだ分からない状況であり、学校の使用開始時期については目途がつき次第、案内したい。西荒屋公民館については、公民館の傾きについては夏に調査し、その結果、建て直しが必要との判断に至っている。町としては文部科学省の補助金を使って建て替え費用を捻出したいと考えているが、公民館や社会体育施設の指定についてはまだ補助の対象となっていない。激甚災害であり要件の1つは満たしているものの、もう1つの要件である特定公共施設の団体指定とならないと採択されず、その指定については来年2月に国が指定の可否を決定することとなっている。これに合わせて、実施設計・工事着手となる。駐車場は応急対応をしたが、今後早期の対応ができないか検討したい。

- 冬の上下水道の凍結については、現状は道路脇に仮配管として露出している状況であるが、町が管理しているこの露出配管については、末端から水を流し凍結を抑止するよう配慮する。ただし個人家屋の配管が露出している場合は、個人で対策をお願いしたい。

○ 下水はポンプ排水しているが、大丈夫なのか。

- 下水について、地中の中にあるものは特に問題ない。

○ 私は来年60歳になる。色々と難しい状況にあることは分かっているが、少しでも早く直してもらいたい。復興に10年も20年もかかっているのは、少子高齢化が進むこの地域では非常に厳しい。ここに残りたくて今まで待ってきたが、自分自身も心が折れかけている状況であり、みなここに残りたいと思っている。無理なことを言っていることは承知しているが、10年も待てない。このままでは北部地区が崩壊する。とにかく急いでほしい。伏してお願ひする。

- 町としても、今ほどのご意見は十分に認識しており、みなし仮設の居住延長も国に要望している。今できることとして、災害公営住宅の早期整備など、一日も早い復旧を目指しているのご理解いただきたい。

○ 現在の西荒屋地区での公費解体の進捗を聞きたい。建物を解体しないと町道の整備は進まない。わかっている範囲で教えてほしい。

- 西荒屋地区の公費解体は、現在157棟の申請があり、完了が43棟、来年10月に完了するよう進めている。当初から申請数が増えているのも事実であり延長の可能性もあるが、今のところは10月終了を目途に進めている。
 - 今ほどの説明で、来年度にほぼ完了するという事をお聞きした。それから町道の本格的な復旧を進めていただけるようお願いしたい。
-

- 災害公営住宅の候補地は、西荒屋地区の要望としては白帆台の北部を希望した一方で、コミュニティが確保できる状況としてほしいとの要望もしたはず。西荒屋に残ることが重要である。示されている白帆台の角地の計画地はソフトボール場の跡地だと思うが、60件の要望とあるが、仮という判断ということか。もっと早く動いてほしい。穴水町では液状化がないため復興の進みが早い一方、内灘町の西荒屋では液状化現象が発生しており、すぐに対応できないのは理解しているが、集団移転の話が町長が言っていたこともあったと思う。職員の負担も分かるが早く対応をお願いしたい。現時点ではそのような姿勢が感じられない。地域住民が住める場所での整備を急ぎお願いしたい。地域の強い要望を反映してもらいたい。
 - 西荒屋のご要望の上で地権者と交渉を進めてきた。時間を要することから公有地である現在の2箇所を候補地とさせていただいた。諦めたわけではない。ただ当該地の農地の地権者に話をしたが、なかなか話がまとまっていない。現在ストップしている状態である。せっかく整備するのならば、連続的に整備できる場所が良いと考えている。今後も内部で協議していく。ご理解いただきたい。
 - 町にとっても白帆台から連続する市街地は町の発展にも大きな影響があると思うので、ぜひ町長が積極的に進めてもらいたい。
-

- 小学校の復旧スケジュールを示していただいて良かったが、グラウンドが使用できないのであれば小学校の再開が遅くなると思う。西荒屋は若い人が少ない地域であり、学校の再開が遅くなることで子育て世代が移転し、人口が減ることが懸念される。実証実験は学校のグラウンドを使わないといけないのか。学校を一日でも早く再開してほしいので、実験場所を再度検討してほしい。
 - 実証実験のためには、広い場所が必要であり、学校の復旧の妨げにならないように留意しつつ、西荒屋小のグラウンドで実証実験を進めさせていただきたい。
-

- 学校に関して、震災が起きてしばらくは体育館を避難所として使用してきたが、給排水は使えなかった。その後学校は震災から触っていないと思うが、公民館も傾いている状況であり、元旦以降も、今後発生する地震に備え、給排水だけでも避難所として使えるようにしてほしい。体育館は使える状態なのか。
 - 体育館や校舎は問題ないが給排水の破損は激しく、新たに整備することを予定しているが、応急対応可能か検討していきたい。
-

- 来年度、1年生が小学校に入学する親であるが、就学時検診の時や卒業式には西荒屋小が使えたのに入学式ではなぜ使えないのか。開催時期も1日ずれたりしているが、親の着付けも時間がかかることに配慮してほしい。我々は鶴ヶ丘小に入学した訳ではない。校長先生からも説明されたが、西荒屋小で入学式が行えない状況はなぜなのか。

- 入学式については、運営上の問題であり学校内で検討した結果と認識しているが、現場に持ち帰って検討したい。
 - 鶴ヶ丘小に入学した訳ではない。鶴ヶ丘小の生徒との共同については息子も減入っており、心のケアはスクールカウンセラーだけでは持ちきれない。鶴ヶ丘小学校と西荒屋小学校間でのトラブルも非常に多い。子供のことを考えてほしい。保育所も同様であり、先生の配置等も含めて町には対応をお願いしたい。
 - 真摯に対応したい。
-

- 自宅は半壊ではなく準半壊である。準半壊の支援では生活が厳しい。個別で支援してほしい。また、人口流出を防ぐために空き家バンクの公開をお願いしたい。
 - 空き家バンクはHPで公開している。不動産業界と連携して情報提供の充実に努めたい。
-

- P8の液状化対策について、ランニングコストは行政で負担するとのことであるが、住み続ける場合に負担が発生するのであれば移転も考えざるを得ない。今後の住民負担の考えを聞かせてほしい。
 - P8のポンプ排水方式は、金額は内灘町全域での対応での金額であり、自然流下方式ではポンプ費は不要であるが、全て自然流下方式では対応できず、地区によってはポンプを設置する必要があると想定される。他都市の事例では、ランニングコストは住民負担を求めないケースがほとんどである。期間について、30年程度は自治体で持つことが多い。現段階では他事例も鑑み、町で負担する（住民負担は求めない）方向で考えている。
 - 対策期間は30年を想定しているのか。30年以降は住民負担となる可能性はないのか。
 - 他の事例では30年であるが、ポンプの更新やドレーン管の取り換えなど、過去に実績がないので、その時点において話し合いとなると想定される。
-

- 地下水位低下工法と地盤改良工法では、西荒屋地区の中で対策が別々となっても構わないものなのか。
- 地下水位低下工法は道路下に集水管を入れるものであり、民地に施工することはない。地下水を下げることで地盤沈下が発生する可能性もあるので実証実験で検証していきたい。
- どちらかの工法を選択するということか。所有者の合意は、3,000㎡が条件となる場合、住民の全員の合意が必要となるということか。
- 地下水位低下工法は道路敷に施工し広域的に効果が期待できる一方、地盤改良工法は更地になった場所に適用され、ある程度広い場所であることが条件になる。
- ※住民合意の基準はなくなったが、一定数の合意は必要であると考えています。
- 工法の合意は地下水位低下工法でも必要なのか。内灘町は対応が遅いとよく聞くが、復興委員会はあるのか。専門家が集まって知恵を出し合ってほしい。家も土地も被害を受け、境界もわからない状態にある。合意は必要だが、町が率先して案を提示してほしい。10年間かかるというがその期間どう生活をすれば良いのか。室の応急仮設住宅も狭すぎる。1、2年間なら我慢できるが、生涯住み続けられない。やることはやらないといけない。被災者に寄り添ってきめ細かな対応をしてほしい。
- 地下水位低下工法と地盤改良工法については、地下水位低下工法の方が有利だと考えており、有識者からの意見も踏まえ実証実験を進めたい。また土地境界については、国や県の専門家とも協議中であるが、地籍事業として進めることができれば、費用負担がなく公費負担で進める可能性がある。

-
- 現在、西荒屋地区で建物を建てる場合、許可がでるのか。
 - 西荒屋地区では、建築基準法上のルールが合致していれば可能。
 - 今回の地震での液状化と側方流動は全国的にも稀なケースであり、発災当初から国で地盤調査をしており、それを踏まえ、実証実験を進め、目に見える形で体感してもらいたいと考えている。5～10年スケジュールの中の5年間の幅については、住民の合意が必要であるからである。内灘町は126ha液状化被害対策検討エリアがあり、一斉に対応することは難しく、工区に分けて対策することになると想定される。時間を要することをご理解いただきたい。地下水位低下工法と地盤改良工法については、液状化した箇所によって適用できる工法が異なることが想定される。

-
- P14の町道について実施設計で1年かかるとのことであるが、1年経ってさらに1年要して何を設計するのか。また、P9の液状化対策の3,000㎡、家屋10戸以上の条件は、10戸に満たない場合は対応できないということか。
 - 町道については、現在は応急工事を実施している。その後、災害査定を受けて国の承認をうけてから実施設計に入る。実証実験の話もあるが、道路も液状化被害を受けている状況であり、可能な箇所は復旧していきたいと考えている。
 - 私が求めているのは査定云々ではなく、現状復旧である。そこまで時間がなぜかかるのか。
 - まずは応急対応を取らせていただいて、その後本格復旧を進めていくことをご理解いただきたい。
 - 応急処理が対応されていないから意見を申している。いつ舗装が終わるのか。地面が割れているところをどう舗装するのか。いつから対応してくれるのか。場所を教えればすぐに対応してくれるのか。
 - 仮復旧は今年の冬までを目標に対応する。まずは具体的な場所を教えてほしい。本格復旧には時間を要することをご理解いただきたい。
 - 国事業の要件は3,000㎡以上、10戸が条件となる。
 - 人が出ていって10戸に満たなくなる。町が対応するとはっきり言わないと動かない。その辺りをしっかりしてほしい。
 - 個人負担についてですが、液状化対策については住民の費用負担は無しの方向で考えている。

-
- 白帆台からの道路のがけ下では、沿道でみな生活しており、現状のままの状態、がけ崩れが発生したらどうするのか。崖の状態を把握しているのか。
 - 西荒屋小学校のところをおっしゃっていると思うが、現在設計等の業務を進めており、でき次第対応する。崖については測量等で確認している。状況の進展については、都度お知らせする。
 - 毎日現場を見ているが、崖の箇所を確認しに来ている職員は誰もいない。
 - 町の職員ではないが、定期的に見てもらうことを依頼している。
 - 西荒屋の生活者がまだ何十人と固まって住んでいるが、その人たちの安全は現状のままでもいいのか。今住んでいる人が二次・三次被害に遭ってしまったら大変である。
 - 定期的に観測はしており、状況が進んだ場合は、住民の方へとお知らせしたい。
-

- 本日は多くの意見をいただいた。町としても真摯に受け取り復旧・復興を進めていきたい。個別相談を受け付けているのでお問い合わせいただきたい。